



神経内科外来にて

～脳卒中後遺症に対するボツリヌス療法～

こんにちは、神経内科の片山です。9月から火曜日午後の神経内科外来を開始しています。この時間帯に主に行っている治療のひとつに、「脳卒中後の上肢痙縮・下肢痙縮に対するボツリヌス療法」があります。この治療法につきまして紹介させていただきます。

手足のまひは、脳卒中の後遺症の中でも最も多くみられる症状ですが、この手足のまひと一緒に現れることが多いのが、手足の筋肉のつっぱり（痙縮）です。痙縮とは、筋肉が緊張しすぎて動きにくくなる状態のことで、手指が握ったままとなり開こうとしても開きにくい、肘が曲がる、足先が足の裏側に曲がってしまうなどの症状が見られます。痙縮によって、日常生活に支障が生じ、またリハビリテーションが行いにくくなることもあります。痙縮を改善する方法には内服薬、外科的療法などがありますが、新たな治療法として加えられたのが「ボツリヌス療法」です。これは食中毒の原因菌であるボツリヌス菌が作り出す天然のたんぱく質（ボツリヌストキシン）を有効成分とする薬を筋肉内に注射する治療法です。ボツリヌストキシンには筋肉を緊張させている神経の働きを抑える作用があり、そのため注射すると筋肉の緊張を和らげることができるのです。ボツリヌス菌そのものを注射するわけではないので、ボツリヌス菌に感染する心配はありません。この治療法は世界80カ国で認められ、広く使用されています。日本では、「眼瞼けいれん（瞼がぴくぴくして眼が閉じてしまう病気）」や「片側顔面けいれん（顔の筋肉が収縮する病気）」、「痙性斜頸（首が斜めにまがって動かなくなる病気）」などに使用されていましたが、2010年10月から「上肢痙縮・下肢痙縮」に対して認可されました。手足の筋肉がやわらかくなり、動かしやすくなることで日常生活動作が行いやすくなり、リハビリテーションが行いやすくなります。また、痛みを和らげる効果も見られます。また関節が固まって動きにくくなったり、変形するのを防

ぎます（拘縮予防）。介護する方にとっては、かたくなりこまった手が開くようになり体を拭いてあげやすくなるなど、介護の負担が軽くなることが期待できます。具体的にはまず面談を行い、痙縮によって困っていることなどを相談し、治療の目標を定めます。副作用、費用等の説明を行い、患者様もしくはご家族に同意書をお渡しします。副作用としては注射部位のはれや痛み、だるさなどがあり、多くは一時的なものです。治療を希望されましたら、同意書に署名を頂き投与日の予約をします。注射部位は痙縮の見られる筋肉で、患者様によって異なりますが一度に数カ所注射する場合はほとんどです。ボツリヌス療法の効果は、1回注射すると3-4カ月持続します。効果の持続時間には個人差があるので症状を相談しながら次の治療計画を立てていきます。

外来にパンフレットが置いてありますので脳出血や脳梗塞後、肘がまがったまま伸びない、また足首が伸びたまま曲がらないといった症状にお悩みの方は、ぜひ一度見てください。

神経内科 片山 由理



膳所学区「福祉の町づくり講座」へ

★★★当院から3名の講師を派遣★★★

膳所学区社会福祉協議会より『生活習慣病の改善と予防対策』をテーマに、第3回 福祉の町づくり講座の講師派遣のご依頼をいただき、当院より3名の講師を派遣しました。

10月6日(火)午後1時半、膳所市民センターの会議室に約30名の地域の方々が参加。杉山副院長からは『生活習慣病のアウトライン』を、家城看護部長からは『生活習慣病を防ぐ健康習慣』を、家守理学療法士からは『運動が身体に及ぼす影響』についてお話ししました。参加者からの多くの質問もあり、有意義な講座になりました。引き続き、この様な機会がありましたら参加し、地域の皆さまと健やかな町づくりをすすめていきたいと思っております。

